

◆関東羈旅 (カントウキリヨ) No.34
巾着田の曼珠沙華(埼玉県日高市)

高麗(こま)駅から巾着田(きんちゃくだ)へ

彼岸過ぎの涼しい季節、彼岸花(曼珠沙華)の名前で知られる高麗の巾着田を訪ねました。彼岸花の花言葉は「悲しい思い出」「情熱」「再会」など、見ごろの時節を見逃さず出掛けることにしました。JR池袋駅より西武池袋線に乗り換え「高麗駅」で降りると、駅前には「天下大將軍」、「地下女將軍」と記された2本の將軍標がそびえ立っていました。韓国の道祖神がルーツとのことで、どのような由来なのか、不思議な雰囲気漂っています。徒歩10分ほどのところにある巾着田の曼珠沙華公園は、約500万本の曼珠沙華が咲き誇り、「干ばつ」、「大洪水」、「水難事故」を鎮めるために建立された「水天の碑」があり、昔から災害が多かったことを窺わせていました。

川柳・高麗駅にて

- ・時惜しみ 真紅に燃える 曼珠沙華
- ・睨むなよ 將軍標に 笑み返し
- ・災いを 忘れぬように 石碑建て

曼珠沙華公園

巾着田の名の由来は、大きく蛇行している高麗川に囲まれた地形が巾着に似ているため、巾着田全体が曼珠沙華公園として彼岸花の群生地になっており、曼珠沙華の開花期間は入園料が必要です。川沿いの畦道を進んでいくと、真紅の絨毯のような曼珠沙華の森がどこまでも続きます。花言葉「悲しい思い出」と災害悲話、延々と続く真っ赤な曼珠沙華。いろいろな思いが交錯し、祈らずにはいられない想いとらわれました。

日本最長の木製立体トラス橋「あいあい橋」を渡り、高麗神社でお参りをしました。

- ・果たせない 追悼刻む 彼岸花
- ・連鎖ゆえ 全部流れる ドレミファ橋
- ・巾着田 散策終わり 秋濁き
- ・見晴らしに 和気あいあいと なごむ橋

聖天院と高麗神社

あいあい橋よりカワセミ街道を30分ほど歩くと高麗王若光の菩提寺である「高麗山聖天院勝楽寺」が見えてきました。続日本紀(しょくにほんぎ)によると1300年前の高句麗滅亡によって日本に渡来した1799人の渡来人を716(霊亀2)年、武蔵国に高麗郡を設置し迎え入れ、若光は高麗郡の首長として当地を開拓したと言われています。

現在の日高市は1896(明治29)年まで高麗郡として栄え、聖天院は若光の徳を偲び菩提を祈るため建立されたそうです。入口には將軍標の石像が置かれ、中腹にある本殿は韓国風の雰囲気が漂っていました。聖天院をお参りした後、徒歩10分ほどの高麗神社に到着すると、神門に掲げられた扁額には「高句麗神社」と文字が彫られており、高句麗を高麗と読んでいた時代の名残を感じ

じ、日本と韓国の長い交流の歴史を実感しました。

神社で御守りを購入し、「神社の狛犬は高麗犬なのだろうか」と考えながら帰路につきました。

- ・滅びゆく 故国を偲ぶ 將軍標
- ・摩訶不思議 亡き故郷の 小さい句
- ・忘れない 天変地異の 走馬灯

「海員だより」